

道徳の時間学習指導案

授業者 T1 佐々木仁美
T2 福田 祐子

- 1 学年 第5・6学年
- 2 主題名 家族の一員として (4-5 家族愛)
- 3 資料名 「お父さんのおべんとう」(「希望をもって 5年 東京書籍」)
- 4 ねらい 家族の一員として、自分で考え進んで役立とうとする心情を育てる。
- 5 本時の展開

	学習活動	主な発問 (○) と予想される児童の反応 (・) (◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 本時の学習課題をつかむ。	○自分にとって家族とはどんな存在ですか。 ・一緒に楽しく過ごしている。 ・大切。 ・いろいろ言われてうるさいと思う時もある。	・家族について思いを寄せることで、本時の学習への方向づけを図る。
展開	2 資料「お父さんのおべんとう」を読んで話し合う。	○「ぼく」はお父さんのことを、ふだんどう思っていたでしょう。 ・いつもきちょうめんにしていて、僕とは少し違う。 ・あまり仲良しということもない。 ○お昼用に準備したパンをお父さんが食べた と知った「ぼく」は、どんな気持ちでしたか。 ・なんで食べないといけないんだ。ぼくが考 えて用意していたのに。 ・ぼくのことを考えてくれない。ひどい。 ◎お父さんの照れくさそうな顔と、悲しそ うな顔を思い出しながら、「ぼく」はどんなこ とを考えたでしょう。 ・あんなに怒ってお父さんに悪かったな。 ・お父さんはぼくのことをすごく考えてくれ ていたんだ。 ・ぼくのためにお父さんおべんとうを作っ てくれたんだ。うれしいな。 ○お父さんのおべんとうの入ったリュックを 背負いながら、「ぼく」はどんな気持ちだっ たでしょう。 ・お父さんがぼくのためにおべんとうを作 ってくれたように、ぼくもお父さんのため に何かしよう。 ・お母さんが退院したら、お母さんのた めがんばるぞ。	・「ぼく」の心情の変化に注目させて、資料を読むようにさせる。 ・「ぼく」の心情に共感できるよう導入での児童の発言との共通点を色チヨークで示す。 ・お父さんに対して怒っている「ぼく」に共感させる。 ・ワークシートを活用する。 ・お父さんの気持ちにも触れ、お父さんへの気持ちが変化する「ぼく」に共感させる。 ☆お父さんの言葉に触れ、家族の役割について考え始めた「ぼく」に共感することができる。
終末	3 自分の生活の振り返りと学習のまとめをする。	○家族の一員として、自分はどんなことをしてきましたか。また、これからどんなことをしたいですか。友達と話し合ってみましょう。	☆自分にできることを考え、友達との交流を通して、より考えを広げることができる。

